

[表-34 単元の個人目標の評価 ]

児童	個人目標	評価 今後に向けて
a	<p>①「ブレーメンのB組音楽隊」の劇をする中で、ライオンの役になりきり、悲しい気持ちや嬉しい気持ち等を、動作をつけながら台詞を言うことで表すことができる。 (国語科 小学部2段階)</p>	<p>ア 自分の台詞を言うことができるようになった。</p> <p>イ 実際に台詞で表す際には、読むことで精一杯になり、気持ちを込めることは難しかったが、登場人物の台詞を考える際には、2つのイラストを手掛かりに「困っている」と自分なりに気持ちを考えて言うことができた。</p> <p>ウ 練習を重ねる中で、自分なりに言いやすい台詞に変え、工夫して表現する姿が見られた。</p> <p><b>今後に向けて</b></p> <p>これまでは平仮名を読むことに苦手意識が見られたが、単元を通して少しずつ自信がついてきて、他の場面でも自分から本を読む姿が見られるようになった。今後は、読み取って表現する力をさらに伸ばしていきたい。</p>
	<p>②「ブレーメンのB組音楽隊」を発表するにあたって、友達と協力して役割を果たすことができる。(生活科 小学部2段階)</p>	<p>ア (単元期間中に足を怪我していたため、活動への制約がある中で、直接協力して役割を果たす場面は難しかったが) 自分の役割を理解して、取り組むことができた。</p> <p>イ お面を渡す役割のときには友達の名前を言いながら渡したり、掛け声をかける際には友達の様子を見渡してから「せーの」と言ったりして、友達を意識して役割を果たすことができた。</p> <p>ウ 劇の会場に向かう前に、自分からお面が入っているかごを取りに行く様子が見られた。</p> <p><b>今後に向けて</b></p> <p>今後も友達と協力して役割を果たす場面を設定する。</p>
d	<p>①「ブレーメンのB組音楽隊」の劇をする中で、ゾウの役になりきり、他の役の友達に向け</p>	<p>ア 台詞のスイッチを押して、台詞に合わせた動作をすることができた。</p> <p>イ ゾウの役の台詞の意味を理解して、自分から友達の方を向いて「いってみよう」と手を挙げる動作をすることができた。また、自分の出番の前に、友達の働きかけに対して</p>

<p>て、台詞に合わせた動作をすることができる。 (国語科 小学部1 段階)</p>	<p>返事をして、台詞のタブレット端末のキーを押す姿が見られた。</p>
	<p>ウ 発表会当日の最後の配役紹介の時に、自分から「パオーン」と台詞を言う姿が見られた。</p>
	<p>今後に向けて</p>
	<p>いろいろな表現方法を知り、自分から表現しようとする態度を育てたい。</p>
<p>②「ブレーメンのB組音楽隊」の劇をする中で、友達と協力して役割を果たすことができる。 (生活科 小学部2 段階)</p>	<p>ア 劇の準備や後片付けの際に、友達と一緒に小道具を運ぶ役割を理解して、取り組むことができた。</p>
	<p>イ 友達の様子を見て、友達の動きのペースを合わせながら運ぼうとする姿が見られた。</p>
	<p>ウ 繰り返し取り組む中で自分の役割を覚え、自分から進んで取り組む姿が見られるようになった。</p>
	<p>今後に向けて</p>
	<p>今後も友達と協力して役割を果たす場面を設定する。</p>

児童aは、登場する動物の気持ちを考える学習では、教師の「この時〇〇はどんな気持ちだったかな。」という発問に対し、教師が準備した選択肢から選ぶだけでなく、じっくり考えて自分なりの言葉で表現した。また、劇の練習では、物語の進行とともに登場する動物の気持ちに変化していることも理解し、声の大きさ等で表すことができ、物語の内容の理解が深まったと考える。平仮名を読むことにまだ難しさがあるので、台詞に表すまでには至らなかったが、言いやすい台詞に換える等、工夫する姿も見られた。役割を果たすことについては、友達の様子を見て少し待って声をかける等、友達へ意識を向けた上で、役割を果たす力が高まったと考える。

児童dは、台詞を発することが難しいので、タブレット端末で台詞を再生し、動作で表すようにした。自信をもって自分から行動できるように、こまめに称賛するように心がけた。はじめは、一つ一つ教師の言葉掛けが必要だったが、友達の促しに応じ、少しずつ自分から役柄の動きができるようになった。また、台詞が誰に向けてのものか分かり、相手の方に向けて動作をするようになるなど、場面設定や周囲の状況の理解が進んだことがうかがえた。役割を果たすことに関しては、一緒に行う友達の歩調に合わせて、大道具がぶつからないよう注意深く運ぶことができるようになった。

児童aや児童dを含め、クラスの児童全員は、概ね単元の個人目標に迫ることができたと考える。その中で、児童fについては、個人目標①に関して目標設定に課題が残った。児童fの単元目標は「劇をする中で、他の役の友達の働きかけに視線を向けたり、教師と一緒に動物の鳴き声を模倣したりすることができる。(国語科 小学部1段階)」としたが、本児にとって、劇をする中で友達に視線を向けたり、教師と一緒に動物の鳴き声を模倣したりすることの必要性が感じづらいものであり、「知識・技能」においても評価することが難しかった。このように、国語科の目標設定と目標を達成するための活動の設定については課題が残り、どのように設定すべきだったのか、指導の工夫はなかったのか、自立活動のねらいも視野に入れながら検討を重ねていきたい。

とはいえ、この児童fも、動物のお面を自らつけて、教室から劇をする会場に笑顔で向かう姿が見られたり、単元期間中に自分達で制作した劇の看板を見て、自分から「ブレーメン」とつぶやいたりすることもあったことから、本単元によって「主体的に学習に取り組む態度」は育まれたと判断した。

最後に、単元終了後の授業の評価として、「単元についての気付き・意見・今後に向けて」の観点から、学部で意見を出し合った【表-35】。

【表-35 単元についての気付き・意見・今後に向けて】

- ・「見にきてもらう」「発表する」という活動が児童の意欲を掻き立てていた。
- ・教師に向けて発表会の場を設けて相手意識をもったり、自分たちで役割を決めたりすることを通して、児童が主体的に活動する姿が見られた。
- ・ICTを活用することで、発語が少ない児童が自己表現をすることや、動画で振り返って友だちの姿を褒めたり意見したりすることができた。
- ・感想を発表したり、友だちと一緒に道具を作ったり劇をしたりすることを通して、異なる考えや新しい考えに気付くことができた。
- ・感想を発表する際に、気持ちを表すイラストカードの札を使うことで発語のない児童が自己表現をすることができ、活発に意見交換をすることができた。
- ・自分なりに考えて登場する動物の感情に合わせて動作をすることができた。
- ・「思考力・判断力・表現力」を深めることができるように、様々な場面の台詞の言い方や動物の鳴き方、動作の付け方等を考える時間を設けた。一人の児童が考えた動作について、他の友達が良さを褒めたり、他の表現方法を伝えたりすることができた。
- ・各教科等を合わせた指導において、合わせることの意味が重要であると思うが、本単元では国語科と生活科の指導が相乗効果をもたらしていたと思う。
- ・生活単元学習の「子どもたちにとってのその期間の生活のテーマとなるような学習」になっていた。

- ・本単元で習得した「聞くこと・話すこと」「読むこと」の力を、今後どのように日常生活に広げていくのか、さらにどう伸ばしていくのかの、検討が必要。
- ・国語科や生活科の教科の内容だけでなく、自立活動の内容を組み込んで単元を設定する必要があるのではないかと。
- ・障害の程度や実態に幅がある学級集団の中で、生活単元学習の単元を組み立てることの難しさを改めて感じた。

### 成果と課題

昨年度作成した「学習内容表」を活用して一人ひとりの実態把握を細やかに行ったことで、「学びの履歴」や身につけたい力が明らかになり、年間指導計画を見直したり、より実態に即した目標設定をしたりすることができた。実態を細やかに把握したことで、今までの学習が「知識・技能」の習得に偏っていたことが分かり、本授業で「思考力・判断力・表現力」に焦点を当てた授業を組み立てることができたことは学部研究の成果であると言える。

一方で、「思考力・判断力・表現力」に焦点を当てて組み立てた目標に対して、評価の項目がア「知識・技能」、イ「思考力・判断力・表現力」、ウ「主体的に学習に取り組む態度」と3つに分かれているため、評価が行いにくい項目が出てきた。今回の単元では、目標を達成するために児童が自分の知識や技能を活用したとみられる場面をア「知識・技能」、授業を通して意欲的に取り組んだと見られる姿をウ「主体的に学習に取り組む態度」として評価している。目標を立てる段階から、ア、イ、ウごとに項目を立てるべきなのかについて、今後全校での検討が必要である。本単元を受けて達成できなかった目標については、生活科や国語科の指導内容の改善を図るとともに、今後の単元計画や次年度の年間指導計画にも反映をしていきたい。

### イ 中学部の取組

中学部では、今年度、中学部2年生を対象として、各教科等を合わせた指導である生活単元学習の授業を行い、各教科等を合わせた指導における各教科の目標・内容・評価の在り方の検討を通して、カリキュラム・マネジメントの意義について考察することとした。

#### 年間指導計画における単元の位置付け

中学部2年では、昨年度の7月前後の生活単元学習で、季節の行事を楽しもうという単元を計画し、その中で美術科の目標「制作活動の中で、道具の使い方を知ること、道具を使う経験を増やすこと」と、自立活動「目と手の協応動作の向上」を合わせ、「夏祭りをしよう」という単元を設定した。一人ずつ好きな屋台を決め、魚釣り屋さんやくじ引き屋さんなど、個人で屋台の商品作りを行い、他学部の児童生徒をお客と

して招くという活動に意欲的に取り組むことができた。この活動を通して、美術科・自立活動の目標を学級の生徒全員が達成することができた。

また、「夏祭りをしよう」を今年度でも実施したいと考えた。「学びの履歴」をチェックする過程で、1年生時の様々な授業の取組を通して、生徒同士のかかわりが増え共に学ぶ態度が身につけてきていることが明らかになった。

今年度「夏祭りをしよう」の単元を計画するにあたっては、身につけた力の変容も踏まえ、それらをさらに伸ばせるよう二つの教科を中心に目標を設定することとした。一つ目は、社会科「社会参加するために必要な集団生活」である。ここでは、屋台の模擬店の準備やお客さんとのやりとりを通して、販売について触れたり、人に喜ばれるように仕事（役割）を果たそうとしたりすることを目指す。二つ目は、職業・家庭の職業分野「働くことの意義」である。作業学習で畑仕事や販売会などでの仕事の経験が増え、他者と協力して働くことの意欲が高まってきていることを踏まえ、グループ活動を中心として屋台について話し合いながら計画したり、それぞれが協力し合って準備を進めたりすることを目指す。

#### 生徒の実態

中学部2年生は、6名の生徒で構成されている。1年生から在籍している5名は、昨年の同じ時期に「夏祭りをしよう」の単元を経験している。昨年度は、屋台を一人で作る活動を行い、はさみで切ったり、折り紙を丁寧に折ったり、自分で色を選んできれいに塗ったりするなどし、美術や自立活動の目標を多くの生徒が達成することができた。単元に取り組む際も、授業が始まると積極的に道具を借りたり、休憩を取り入れながらも時間いっぱい取り組んだりする姿が見られた。また、生活単元学習のその他の単元や作業学習等において、工程を分担して一つの物を作りあげたり、同じ作業を同じ場所で取り組んだりするなど、グループで活動することも経験し、積み重ねてきている。2年次から転入してきた1名は、学校生活に少しずつ慣れ、学級の友達と一緒にやりとりしたり活動したりする中で、役割を果たしたり協力したりすることを意識して取り組むことができている。

#### 単元構想及び指導案からの抜粋【図-63】

1 単元名：「夏祭りをしよう（夏の行事）」

2 単元の目標

- ・来場者に喜んでもらえるものは何かを自分達で考え、活動に取り組む。（社会）
- ・グループの友達と協力をして仕事に取り組む。（職業・家庭／職業分野）

3 単元の計画（全32時間） 6/16～7/12

次	時	日時	学習内容	指導内容
---	---	----	------	------

1	2	6/16 ②	○夏の行事について知ろう。 (夏の星空, 全国の夏祭り) ○夏祭りの見通しをもとう。 ・どんな屋台にするか ・グループ分け・チラシ作り	・理科, 自然との触れ合い ・社会, 伝統的な文化 ・国語, 聞くこと・話すこと
2	15	6/17 18, 21, 24, 28	○屋台を作ろう。 ○チケットを作ろう。 ○生産者よりの看板を作ろう。	・社会, 係や当番の仕事 ・社会, 手伝い・仕事 ・美術, 表現 ・職業分野, 働くことの意義
3	6	6/30 7/1	○屋台のリハーサルをしよう。 ・挨拶の仕方 ・チケットの交換方法	・職業分野, 人とのかかわり ・職業分野, 職業生活の具体的内容
4	6	7/5, 8	○お客さんを呼んで夏祭りをしよう。	・職業分野, 人とのかかわり ・職業分野, 職業生活の具体的内容
5	3	7/12	○振り返りをしよう。	・職業分野, 働くことの意義 ・国語, 書くこと

#### 4 本時の展開

時間	学習活動	指導・支援
10:35	1. はじめの挨拶をする。 2. 今日の予定について知る。 3. グループごとに, 今日の日目標を決める。 4. 働くためのきまりを確認する。	・日直に挨拶をするよう促す。 ・これまでしたこと振り返りを, ワークシートを使ってする。また, それらから今日は何の活動をするのかを生徒と考える。 ・グループに分かれ, 話し合いをして今日の日目標を決める。 ・決めることが難しい場合は, これまでしてきたこと等の選択肢を提示する。 ・働くためのきまりを, 日直の後に続けて言うよう指示する(生徒間の距離を十分に取る)。日直

	<p>5. グループにわかれ、1年生をお客さんとして迎えリハーサルをする。</p> <p>6. 振り返りをする。</p> <p>7. 次の授業の見通しをもち、おわりの挨拶をする。</p>	<p>に、全員に聞こえるような大きな声でリードするよう伝え、ボードを掲げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見えにくい場合は席を移動しても良いことを伝える。</li> <li>・自分達の接客の様子を学習用PCで記録できるよう、生徒へ学習用PCを配布する。</li> <li>・働くためのきまりや、各グループで決めためあてを随時確認する。</li> <li>・各グループ1回ずつリハーサルを行う。</li> </ul> <p>・挨拶や立ち居振る舞いを学習用PCで確認し、本番に向けての新たなグループ目標とする。</p> <p>・おわりの挨拶を日直へ促す。</p>
--	---	---

〔図－63 「夏祭りをしよう（夏の行事）」指導案（抜粋）〕

1次では昨年度の夏祭りの様子の動画を見ながら振り返りを行うことで、昨年度の目標との違いを明確にしたうえで生徒が活動の見通しをもてるようにした。

2次の夏祭りの準備は、本番の場所の視覚的なイメージをもちながら屋台の準備を進められるよう、夏祭りを行う特別教室でグループに分かれて活動を行うようにし、グループの中で互いのアイデアを出し合ったり、協力して作業を進めたりできるようにした。また、お客さんとして招待する小学部児童に好きなキャラクターを予めインタビューをしてから商品の準備をしたり、作ったチケットを直接手渡しに行ったりして、人とのかかわりの場面作りを大切にした。

3次のリハーサル（本時）では、実際にお客さんをお呼びして夏祭りの本番を行う前に、夏祭り単元を並行して行っている中学部1年生をお客さんに見立ててリハーサルを行った。

4次の本番では、招待するお客さんを2日に分けて行った。リハーサル→本番1回目→本番2回目と、段階を踏みつつ同じ授業の流れで、

なつまつ  
夏祭りをしよう



名前( )

今日めあて

グループ目標

	目標	チェック

ふりかえり

〔図－64 振り返りワークシート〕

3回のリハーサルと本番を行った。毎授業、グループの目標立て、振り返り、次に頑張りたいことをグループ協議し、振り返りワークシート【図-64】にまとめ、発表を行うことで、生徒が目標をもって次回に取り組めるようになることを狙った。また、生徒が上げた次に頑張りたいことを次回の目標の候補と捉え、それを達成するためには、生徒の支援を行う教師がどのような支援を行ったらよいかについて、予め考えて準備できるようにした。作業学習の朝礼時に全員で確認をしている「働くためのきまり」の復唱を3次、4次でも取り入れた。作業学習で仕事を始める前に言う「働くためのきまり」を全員で言うことで、これから仕事に臨むという意識付けになることをねらった。

#### 実際の様子と授業改善

単元を通して、生徒は見通しをもちながら準備をしたり、積極的にお客さんに関わったりすることができた。

かき氷屋さんでは、それぞれの得意なことを生かし、お客さんに説明をしたり、商品を袋に詰めたり、「ありがとうございました。」と言葉をかけたりしながらスムーズに活動を行った。また、商品が減ったらすぐに補充をするなど、状況を見ながら積極的に動くことができていた。

場面緘黙症の生徒kは、お客さんが来ると、「チケットをください。」、「(商品を)2こずつ取ってください。」など書かれたコメントシートを使い【図-65】、お客さんの誘導などを自分から行うことができた。他の生徒と協力しながら商品の補充や接客も行い、自分のやり方で人とのかかわりを広げることができた。

生徒hは、袋詰めされた商品をお客さんに手渡す役割を担当し、練習した接客の言葉に従い、「いらっしやいませ!」「ありがとうございました。」とはっきりと相手に伝えることができていた【図-66】。また、ワークシートを使った目標立て・振り返りでは、振り返りの際、「またおこしく下さいと言った方がいいね。」と、自分で考え、それをグループの友だちと共有し、次の本番に向けての目標をグループ全員で考える活動につなげることができた。

お面屋さんを担当した生徒は、お面のお手本にしたキャラクターをもとに、お客さんに「サルのお面はどうですか。」など言葉かけをすることができた。商品が減ってくると友だちと協力しながら陳列を行うなど、自分たちで考えながら活動を行うことができた。その中で、お面を袋に入れ次の受け渡し係に渡す役割の生徒gは、受け取った商品を曲がらないように丁寧に袋に入れ、「〇〇さん、おねがいます。」と言いながら次の受け渡し係に渡すことができた【図-67】。最初は教師に促される場面もあったが、自分の役割を理解し、他の生徒と協力して活動を行う中で自分から言葉かけをすることができるようになった。



〔図-65 コメントシートを使う様子〕



〔図-66 接客の様子〕



〔図-67 受け渡しの様子〕

授業改善について、毎時間生徒が記入する振り返りのワークシートをもとに行うようにした。特に生徒が「主体的」に学ぶことができるようにという視点を重視した。例えば、2年生が自信をもって販売に取り組めるよう、1年生と一緒にグループ活動をする場面を設定するようにした。このことにより、1年生もそれを手本にして活動できるようになった。授業改善を重ねる中で、生徒たち同士で声を掛け合い、屋台の準備で協力して長机を運んだり、お客さんを確認して挨拶をしたりするなど、主体性がうかがえる姿が多く見られるようになった。

**単元の評価・次の単元や次年度への展望**

単元の個人目標の評価について、生徒k〔表-36〕を取り上げる。生徒kはこの取組を通して単元の個人目標を達成することができた。将来の働く生活に向けて、ICTを活用しながら工夫して仕事をする力や、見通しをもって働く力を身に付けることができたと考える。

〔表-36 単元の個人目標の評価〕

k	①相手を想像しながら制作する物を選ぶ事ができる。 (社会, 中1, アー(ア)ー①)	ア	「かき氷屋さん」として、全校へ配布するチラシや、折り紙のかき氷を作った。
		イ	折り紙の色を変えたり、折り紙の色を踏まえた色塗りをしたりすることができた。
		ウ	タブレット端末やローマ字表の付いた国語の教科書を自分で用意し、新しい物を作る時にインターネット検索をして想像を膨らませた。
		今後に向けて	
		相手にインタビューをして好みを聞いたり、自分に関わる人達に分け隔てなく対応できたりするようになってほしい。	
	②販売への見通しを持って準備に取り組	ア	予定表を見て、その日の活動の見通しを持つことができた。
		イ	予定表とチェックリストを見てその日の活動を確認し、チラシやチケット、商品作りに必要な道具が何かを考えることができた。

むことができ る。(職業分 野, 中1, A ーアー (イ))	ウ その日の活動を確認し, ローマ字を打つ場面では国語の教科書, 報告場面では筆談用ノートを自分で準備することができた。
	<b>今後に向けて</b> 今回, 予定がわかって見通しをもつことで, 一人で道具の準備ができたため, 今後は道具だけではなく, 活動自体を自分で目標や予定が立てられるようになってほしい。

生徒kだけでなく, 本単元では, 導入部に夏の天体や行事などを扱うことでも, 夏祭りへの意欲を高め, 昨年の取組も思い出しながら, やる気をもって取り組むことができた。目標達成の手段として, 夏祭りの屋台の模擬店を開く設定で授業を行ったことは生徒たちに意欲を持たせるのにはとても良かった。教師は, 一人ひとりの実態に応じた目標設定と, 生徒の特性に合った役割の割り当てと, それぞれに応じた支援を心掛けた結果, 生徒は自分の役割を意識して取り組むことができた。また, 準備から当日のお店の運営までの見通しがもてるようICTを活用して視覚的な理解を促したことも, スムーズな活動につながった。

#### 本単元の成果と課題及び次の単元や次年度への展望

本単元を通しての成果と課題, 今後の展望について, 2点のことについてまとめた。

一点目は, 本校のカリキュラム・マネジメントに沿った生活単元学習の授業作りについてである。今回, 対象学級の生徒が, 1年生時に主体的に生き生きと取り組むことができた「夏祭りをしよう」の単元を, 2年生時でも是非設定したいと考えた。しかし, これまでの中学部の学習における, 「働くこと」に関する知識・技能や意欲の高まりを踏まえ, 1年生時の美術と自立活動の指導内容ではなく, 「働くこと」に関する指導内容(職業・家庭の職業分野と社会)を取り扱うこととした。生徒の好きな「夏祭りをしよう」の活動を通して, 「働くこと」の価値に気付いたり, よりよく働くために工夫しようとしたりする姿が見られるのではないかと考えた。

単元の個人目標については, 今期研究の「学びの履歴」を確認した上で, 設定した。職業・家庭(職業分野)や社会の中学部段階の指導内容に基づく目標設定が実態に適していない生徒については, 学習内容表で整理されたつながりにおける小学部生活科の内容を踏まえた目標設定を行った。このことにより, 生徒の実態に合った目標設定を行うことができ, 単元を通して生徒一人ひとりの「働くこと」に関する資質・能力を育成することができた。

今回の取り組みを通して, 次年度の生活単元学習をどのように設定するかについて, 以下の3つの方策がとれるのではないかと考えた。1つ目は, 今年度実施した生活単元学習の中で, 生徒が生き生きと主体的に取り組むことができた単元について, 習得で

きた指導内容の発展的内容を取り扱い、再びその単元を設定することである。2つ目は、今回の研究授業のように、生徒が興味関心をもち生き生きと取り組むことができた単元の活動内容を踏襲しつつ、生徒に必要な学びに基づく指導内容を設定し直すことである。3つ目は、習得を目指す指導内容に合わせて、新たな単元を設定することである。その場合は、生徒の興味関心を踏まえつつ、生徒の生活年齢に応じ、学校学部行事や他の授業とも関連させた単元を考えていかななくてはならない。次年度の年間指導計画を作成にするにあたっては、今年度を実施した生活単元学習について、この3つの視点で全単元を見直していきたいと考える。

二点目は、グループ活動の設定についてである。本単元では、それぞれの生徒がチケットの受け渡しやお客さんへの言葉かけをする係などの役割をもち、グループの一員として準備やリハーサルを進め、本番に臨んだ。このようなグループ活動を設定したことで、友達の様子を見て、自分も同じようにやろうとしたり、「自分は何をすればよいか」考えた行動をしたりするなどの観察学習や模倣学習を行うことができた。

さらに、グループ活動の利点としては、一緒に活動を進める中で、お互いに声をかけてやりとりをする場面が増え、友達の様子を見て状況を判断し、相手を気遣った言葉をかけたり手伝おうとしたりする「助け合い」という社会性が身に付いていくことであると考ええる。

今後も、このグループ活動を適切に取り入れ、グループ内で役割を交代することにも取り組んでいきたい。様々な役割を果たす経験を積むことで、自分の得意なことや好きなことを知るきっかけとなるのではないかと考える。また、一緒に活動する友達を深く知ることになり、思いやりや助け合いの心情が育つことにつながるのではないだろうか。

## ウ 高等部の取組

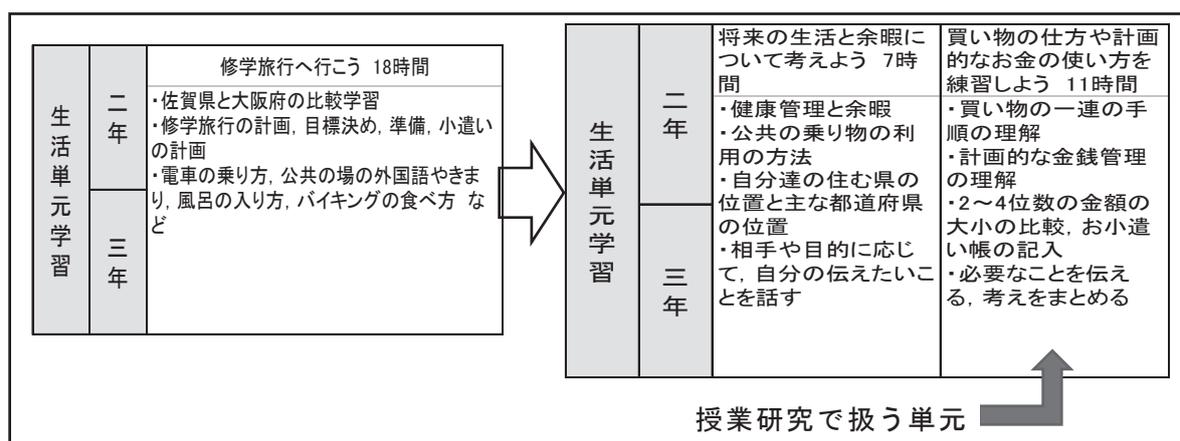
高等部では1年次の取組みにおいて、授業改善で言うところの「対話的」な授業を軸とした展開における指導効果が得られた。2年次は生活単元学習において授業研究を行うこととした。

### 年間指導計画作成における単元の位置づけ

年間指導計画は、前年度中に計画を立て、その年度の初めと半既経過時点で生徒の実態把握と並行して見直しを行っている。生活単元学習については、卒業後の社会生活に向け、意欲的な生活を送っていけるような資質・能力を育むことをねらっている。そのため、生活上のテーマや課題について組織的に経験でき、生徒の変容に応じて発展性のある活動にも取り組めるよう計画を立てている。

そのような生活単元学習において、今回の授業研究では、修学旅行をテーマとした単元を取り扱うことにした。修学旅行は、生徒が楽しみにしている行事であり、家庭

や学校から離れて生徒自身が実践的に学ぶことができる機会である。今年度は2年生、3年生合同で取り扱うこととなった。単元の活動内容としては、旅行先の地域を調べたり、旅行先でいろいろな人と接することを想定したり、金銭を取り扱う買い物を中心としたりするなど、様々な内容を設定し、単元計画を進めていたが、予定していた修学旅行が新型コロナウイルス感染症の影響により再延期になった。そこで、単元を変更して、修学旅行単元で取り扱う予定だった内容のうち、卒業後に社会参加していく力を生かせるよう、お金の使い方を中心とした内容の単元を計画することとした〔図－68〕。



〔図－68 年間指導計画における当初の計画からの単元の変更〕

#### 生徒の実態と単元構想

本単元の対象となる生徒は、高等部2年生、3年生である。生徒の実態には、幅があり、一般就労を目指し発展的な学習に取り組む生徒、ある程度の資質・能力は育っているがコミュニケーションや社会性に課題のある生徒、日常生活の多くに支援を必要とする生徒など様々である。

本単元「買い物の仕方や計画的なお金の使い方を練習しよう」を計画するにあたって、まず、家庭を対象としてアンケート調査を行った。

その結果、対象生徒15名のうち、保護者からお小遣いを貰っている生徒が10名、そのうち、6名は、月1回、週1回など決まった日に定期的にお小遣いを貰い、自分でお金の使い道を考える経験をしていた。さらに、日頃から貯金をしている生徒が2名、一方で、お小遣いを貰った後、すぐに全額を使ってしまう生徒が3名おり、お小遣い帳をつける習慣がある生徒はいなかった。

買い物のスキルの実態は、買い物の一連の流れを全部一人で行っている生徒が4名、残りの11名の生徒は、買い物を行う上で一部の支援を必要としている状態であった。一部の支援を必要とする生徒は、商品を選ぶことはできるが、レジでの支払いは保護

者と一緒に行うという生徒が多かった。また、支援を要する生徒の中には、買い物の経験が少なく、自分の好きな商品を選ぶことが難しい生徒もいた。

これまでは、生活単元学習に加え、数学の授業でも買い物・金銭の扱いについて関連付けて学習する機会を定期的に設けてきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、買い物学習を経験する機会が例年以上に少なくなり、机上での学習が増えているのが現状であった。

以上を踏まえ、買い物をテーマとした本単元の進め方を検討した。幅広い実態がある生徒に効果的に指導するためには、生活と買い物・金銭の扱いのつながりの観点から、2グループに分かれて学習を行うことが有効であると考えた。グループは、将来の自立した生活を送るために必要な買い物スキルを身に付けることを目標とした「スキルアップグループ」、買い物の一連の流れを理解し、一人で買い物ができることを目標とする「チャレンジグループ」とすることとした。

**指導案からの抜粋** 【図-69】

1. 単元名「買い物の仕方や計画的なお金の使い方を練習しよう」

2. 単元の目標

- 買い物に関わる一連の手順を理解し、一人、もしくは一部支援を受けながら買い物をしたり、決まった予算の中から、日常生活に必要なものを価格や品質を比較しながら、買ったりする。(家庭)
- 2～4位数の金額の大小の比較や計算機での計算の結果から、予算内で買えるか判断したり、レシートを見て、お小遣い帳に収支と残金の記入をしたりする。(数学)
- 伝える相手や話す目的を意識して、自分の伝えたいことを明確に話したり、聞いたことを書き留めたり、分からないことを聞き返したりする。(国語)

3. 単元の計画 (全 11 時間)

次	時	日時	学習活動		指導内容
			(スキルアップグループ)	(チャレンジグループ)	
1	1～3	9/13	○これからの学習を知り、目標別にグループに分かれる。		家庭 数学 国語
			○家庭でのくらしに必要な日用品について考える。	○買い物の仕方を知る。	
	4～5	9/14	○コンビニエンスストアと家電量販店に行き、品揃えと値段を調べる。	○買い物の仕方を復習する。 ○先生と一緒に買い物をする。 ○簡単お小遣い帳をつける。	家庭 数学 国語
6～7	9/16	○コンビニエンスストアと家電量販店に行き、品揃えと値段を調べる。 ○買い物の計画を立てる。	○買い物の仕方を確認する。 ○一人で買い物をする。 ○簡単お小遣い帳をつける。	家庭 数学 国語	

8～9	9/21	○実際に買ってみる。 ○収支報告書を作成する。	○買い物の仕方を確認する。 ○一人で買い物をやり遂げる。 ○簡単お小遣い帳をつける。	家庭 数学 国語
10～ 11	9/24	○学習をふりかえる。	○学習をふりかえる。	家庭 数学 国語

〔図－69 「買い物の仕方や計画的なお金の使い方を練習しよう」指導案（抜粋）〕

**実際の様子と授業改善**

①スキルアップグループ〔表－37, 38, 39〕

スキルアップグループでは、単元の目的を「卒業後を含め生徒の生活全般で生きる資質・能力のうち、自立した生活を送るために必要な買い物スキルを育成する。」とした。本グループの生徒は、就労や一人暮らし等の家族等からの支援が少ない進路が想定される。そこで、自立した生活に必要な家事や生活必需品、日用品を考える学習を設定した。また、家庭と連携をとり、家庭で日頃よく使う日用品を購入する学習も設定した。

〔表－37 学習内容と実際の様子及び授業改善（9月13日）〕

9 月 13 日	<b>学習内容</b>
	1 将来の一人暮らしをイメージする。 2 家の中でする仕事を考える。 3 食事を例に挙げて、必要な作業や道具、材料について考える。 4 生活必需品、日用品について知る。 5 日用品の買い物を通して、計画的なお金の使い方を学習することを確認する。 6 話し合い活動「自分が毎日生活するために必要な物って何だろう？」
	<b>実際の様子</b>
	導入時の学習では、生徒に「家事」「生活必需品」「日用品」という言葉を知っているか質問した。その結果、「家事」は知っているが、「生活必需品」「日用品」については、全員が「よく分からない」と答えた。そこで、「生活必需品」「日用品」について具体例をあげて説明し、確認した。次に、家庭でのいくつかの生活場面をあげて家事に必要な道具、材料について自分の生活を振り返りながら、生活に必要な日用品にはどんなものがあるかについて話し合う活動を行った。しかし、生徒は家事の具体的な内容についてなかなかイメージができず、必要な道具、材料について活発な意見が出なかった。

<b>授業改善</b>
<p>多くの生徒は、現段階で家族に支えられて毎日を生活しており、家庭での自分の役割が少ないことがうかがえた。将来の自立した生活を目指す生徒にとって、家事に必要な作業や生活必需品、日用品について理解を深めることが、生活を維持する買い物活動につながると考えられた。そこで、生徒が店舗で販売されている日用品の種類や価格を実際に手に取って調べることに十分な時間を確保する目的で、当初1回の予定であった校外学習を2回に変更した。</p>

〔表－38 学習内容と実際の様子及び授業改善（9月16日）〕

9 月 16 日	<b>学習内容</b>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 コンビニエンスストアに行き、販売してある日用品の種類や価格を調べる。</li> <li>2 家電量販店に行き、販売してある日用品の種類や価格を調べる。</li> <li>3 予算内で買うことができる商品を選んでおく。</li> <li>4 税込み価格の表示を確認する。</li> <li>5 買いたい物が複数ある場合、合計金額を計算して予算内で買えるか確認しておく。</li> </ol>
	<b>実際の様子</b>
	<p>店舗で販売されている日用品と値段を実際に調べる学習では、店舗内で生活場面ごとに整然と陳列された数多くの日用品を実際に見て値段を確かめることができた。生徒は積極的に店内を見て回り、自分の日常生活に必要なと思える日用品を探すことができていた。また、生徒が自分で選んだ商品を日用品として適切かどうか教師に相談する場面も数多く見られた。生徒は実際に商品を見て回り、具体的なイメージをもつことで、それまで馴染みの薄かった「生活必需品」「日用品」について理解することができた。2回の校外学習で、コンビニエンスストアと家電量販店の日用品売り場で多種の商品を見て調べた結果、食品や飲料水に注目した生徒が、それが日用品に当たるのかを教師に質問する場面があった。当初は、食品の購入を想定していなかったが、長期保存が可能な飲料水や即席麺、缶詰等については「災害等の避難時に備えて常備しておくもの」という解釈で、生徒の考えや気付きを尊重することにした。</p>
	<b>授業改善</b>
	<p>2回の校外学習を経て、生徒は購入候補にあげた商品の価格と残金を計算しながら、自分の生活に役立つ日用品を選択することができていた。そこで、金銭管理に関する学習について発展的な内容に改め、生徒が収支と支出について学習し、収支報告書を作成する活動を取り入れることにした。</p>

〔表－39 学習内容と実際の様子及び授業改善（9月21日）〕

9 月 21 日	<b>学習内容</b>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教師から買い物の活動費を受け取り，領収証に記名して提出する。</li> <li>2 日用品を買いに行く。</li> <li>3 セルフレジの操作や対面レジでのやりとりを練習する。</li> <li>4 お釣りとレシートを各自で保管する。</li> <li>5 収支報告書を作成する。</li> </ol>
	<b>実際の様子</b>
	<p>本時の学習では，生徒が各自の購入計画に沿って買い物に臨んだ。ある生徒は，購入予定の商品が売り切れていたため，同じ種類の別の商品を選択する場面もあったが，予算を超えないように購入額を計算しながら修正し，時間内で買い物をすることができた。他の生徒は，2つの商品の性能と価格を比較しながら迷っていたが，予算内に収めることを意識して買い物することができた。最終的にスキルアップグループの生徒は全員，日用品を意識して商品を選び，購入できた〔図－70〕。</p>
	<b>授業改善</b>
<p>改善した点は，①活動費を受け取った生徒が領収証に記名して提出する活動，②収支報告書を作成して残金を返金する活動を取り入れたことである。当初は生徒が各自のレシートを見て，買った物と使った金額を小遣い帳に記入する内容であったが，生徒の実態に合わせて，収支報告書を作成する活動に変更した。領収証や収支報告書の作成・提出等といった社会人としての義務や行動を意識した学習が，将来の家庭や地域，職場での生活に活用され，よりよい生活につながることを期待される。</p>	



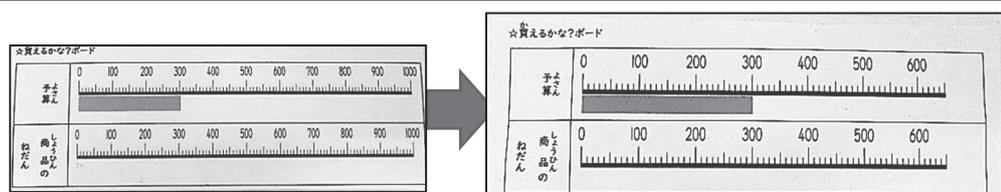
〔図－70 日用品を選ぶ様子（9月21日）〕

②チャレンジグループ〔表－40，41，42〕

チャレンジグループでは，生徒の現在及び将来の生活につながる学習の1つとして，買い物のスキルを獲得することに重点を置いた学習を行うこととした。単元を通して，教室での模擬買い物や実際の店舗での買い物を繰り返して行い，単元終了後には，生徒一人ひとりが，自信をもって楽しく買い物ができるようになることをねらい，単元計画を立て実施した。

〔表－40 学習内容と実際の様子及び授業改善（9月13日）〕

9 月 13 日	<b>学習内容</b>
	1 コンビニエンスストアで売っているものを知る。 2 値札の見方を知る。 3 予算と買いたい物の値段を比較する方法を知る。 4 買い物の手順を知る。（買い物の手順） 5 セルフレジの使い方やレジでの言葉の使い方の練習，模擬買い物をする。
	<b>実際の様子</b>
	値札の見方の学習では，値札に記載されている税込み表示，税抜き表示，どちらを見るべきなのかを学習した。この際，買い物へ行く予定の店舗は，税込み表示に小数点が含まれていたため，生徒には，小数点以下の数字は，読み取らないように伝えた。予算300円と買いたい物の値段の比較する際は，数直線のボードに買いたい物の金額をペンで書き，予算と視覚的に比較するようにした。買い物の手順の学習では，模擬セルフレジ，値札を付けた商品など，店と同じような場の設定をした教室で，買い物の練習をした。ほとんどの生徒が，商品を選んで買い物かごに入れるところまではできるが，レジで支払いをする手順や言葉遣いについては指導が必要だった。
	<b>授業改善</b>
	金額の比較学習において，数直線ボードに，買いたい物の金額を生徒がペンで線を記す方法をとったが，生徒が数直線を理解し，自分で金額を記すことが難しかった。また，数直線が小さかったため，予算との比較もわかりづらい様子だった。そのため，数直線を拡大し〔図－71〕，買いたい物の金額を数直線上に記すのは，教師の役目にし，生徒は，それを見て比較するという活動に変更することにした。

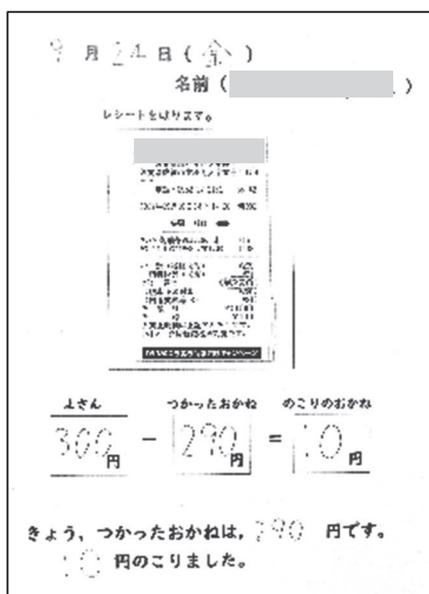


〔図－71 数直線ボードの拡大〕

〔表－41 学習内容と実際の様子及び授業改善（9月14日）〕

9 月 14 日	<b>学習内容</b>
	1 教室で，模擬買い物をして，練習する。（1つ選んで買う練習） 2 コンビニエンスストアへ買い物に行き，好きなものを2つ選んで買う。 3 学校に帰り，レシートを見て，お小遣い帳を書く。
	<b>実際の様子</b>
	教室での模擬買い物では，必要に応じて支援しながら，2人ずつ練習した。実際に使うショルダーバックやエコバック，財布，硬貨を使って行ったため，エコバックや財

<p>布の出し入れのタイミングも含めて、確認することができた。コンビニエンスストアでの買い物では、初めての買い物であったため、「1つ買う」という約束で行った。買う商品が1つだと、生徒たちは、数直線ボードを活用しながら値段を見て選ぶというより、単に好きなものを選んでいただけのようだったが、ほぼ300円の予算を超えることはなかった。支払いの手順については、手順や言葉の言い忘れは所々にあったものの、教室での練習が生かされ、比較的スムーズにできている様子であった。小遣い帳は、レシートを貼り、使った金額と残額を記す方法で行った。予算という言葉の理解や、レシートを読み取り、支払った金額を記載することが難しい生徒が多く、教師と一緒に進めていった〔図-72〕。</p>
<p><b>授業改善</b></p>
<p>当初の計画どおり、今回は、2つ選んで買い物をすることとし、数直線ボードの活用の仕方を教室での模擬買い物でも、練習することとした。</p>



〔図-72 お小遣い帳の記入〕



〔図-73 値札を確認する様子〕

〔表-42 学習内容と実際の様子及び授業改善（9月16日）〕

9月16日	<p><b>学習内容</b></p> <p>1 教室で、模擬買い物をして、練習する。(300円以内で2つ選んで買う練習)</p> <p>2 コンビニエンスストアへ買い物に行き、好きなものを2つ選んで買う。</p> <p>3 学校に戻り、レシートを見て、お小遣い帳を書く。</p>
	<p><b>実際の様子</b></p> <p>模擬買い物では、商品を2つ選び、T2の元へ持っていき、計算機と数直線ボードを活用して、300円で買えるかどうかを考えるとという新たな手順を加えた。選んだ商品の合計金額が、なかなか300円以内にならず、苦勞している生徒が多かったが、T2の教</p>

<p>師が示した数直線ボードの金額を示す線を見てよく考えていた。コンビニエンスストアでの買い物では、模擬買い物同様に「300円以内で2つ選んで買う」ことを課題にした。模擬買い物時と同様、レジへ行く前に、教師と一緒に計算機で計算し、数直線ボードで、予算と比較する手順を踏んだ。前回の買い物では見られなかった、値札をよく見て、商品を選ぶ生徒の姿が見られた〔図-73〕。</p>
<p><b>授業改善</b></p>
<p>模擬買い物の際、300円以内で収まる商品2つを選ぶのに時間を要したため、模擬買い物学習で使う商品の値段を一部下げ、50円程度の商品を増やし、合計300円以内という状況になりやすいようにした。</p>

単元の個人目標と評価〔表-43〕

単元の個人目標の評価について、スキルアップグループとチャレンジグループから1名ずつ示した。他の生徒についても、概ね単元の個人目標を達成することができた。

〔表-43 単元の個人目標の評価〕

生徒	個人目標	評価 今後に向けて		
スキルアップグループ 生徒q	①日常生活に必要な物を理解し、予算内に購入するために必要な情報を偏りなく収集して整理、比較検討し購入することができる。 (家庭 高1段階)	ア	毎日の生活やタブレット端末での検索、日用品の具体的な商品などを知った。	
		イ	タブレット端末での検索や教師への質問をし、店内の品揃えもよく確認をして購入店舗などを計画した。	
		ウ	意欲的に日用品と考える項目の中から幅広く品物を見て購入した。	
		今後に向けて	頼まれたものや家庭に実際に必要なものを加え、支出のバランスを考える。	
	②レシートに記載してある金額を見ながら、元のお金から購入した物の総額や残金の見通しを立てながら実際に計算し、収支報告書に記載することができる。(数学 高1段階)	ア	レシートから収支報告書に転記する項目が分かった。	
		イ	レシートの合計、お釣りの金額を読み取り、実際の釣り銭を計算して確認をした。	
		ウ	レシートの記載や品物について友達とやりとりしながら、主体的に活動していた。	
		今後に向けて	支出の項目について具体的に調べる。	
	③購入計画やお店での購入時に係る話の中心や話	ア	家で使用しているものと比較し、欲しい理由を考えて日用品について意識した。	
イ		購入した商品を、理由を加えて友達の前で説明した。		

	<p>したいことがずれないように話の構成を考えることができる。 (国語 高1段階)</p>	<p>ウ 計画や購入した商品を自分から教師に伝え、友達にも説明していた。</p> <p>今後に向けて</p> <p>発表などにおいて、質問やアドバイスすることを意識する。</p>
<p>チャレンジグループ 生徒t</p>	<p>①買い物に係る一連の手順を自分から質問しながら、購入することができる。(家庭 中1段階)</p>	<p>ア 支払いから金銭の受け渡しまでの買い物の一連の動作は回数を重ねるごとに習得することができた。</p>
		<p>イ レジ袋が必要か不必要なのかを考えて、店員さんに「いません」と伝えることができた。</p>
		<p>ウ 買い物の金額の過不足が分からない場合は教師に質問することができた。</p> <p>今後に向けて</p> <p>買い物学習を継続し、買い物の一連の手順の定着を図る。</p>
	<p>②値札やレシートの3位数までの金額を見て、支払いに必要な硬貨を提示したり、合計金額を読んだりするとともに、お小遣い帳に残高を計算して記入することができる。 (数学 中1段階)</p>	<p>ア 合計金額の把握が難しかったが、3桁目だけに焦点をあて、2の数字になると購入できることが理解できた。</p>
		<p>イ 金額が3桁になり、計算が難しくなると自発的に計算機を使って計算できた。</p>
		<p>ウ レシートに蛍光ペンで印をつけて、お小遣い帳にも同色をつけることで金額を書く場所を覚えて記入するなどの工夫を自分で行っていた。</p> <p>今後に向けて</p> <p>数学の授業などを通して3位数の計算を継続して行う。</p>
	<p>③丁寧な言葉遣いで質問や支払いに必要な受け答え、挨拶をすることができる。(国語 中1段階)</p>	<p>ア 買い物で使う文言を練習することで買い物の場面で丁寧な言葉遣いで話すことができた。</p>
		<p>イ 会話の受け答えはゆっくりではあるが、言葉を考えて店員さんにレジ袋の有無を伝えることができた。</p>
		<p>ウ 自分から店員さんに「お願いします。」と丁寧に挨拶することができた。</p> <p>今後に向けて</p> <p>事前に受け答えの文言を練習することで丁寧な言葉遣いができたので、普段から活用する必要がある。</p>